

あきよいつぎ

秋宵月

作詩 一葉よう子

作曲 秋月京之介

あふれる想いが 満ちたなら
どこへ流せば いいのでしようか
胸につかえた 涙の重さ
泣いてこぼれる鹿威ししおどし
あれは ああ 女の恋しづく
秋宵月の 古都の夕べです

やまなみ 山脈はるかに 吹く風が
もみじひと葉を 染め抜きました
あたり一面 紅色くれないいろに
移る景色の 凜々りりしさよ
わたし もう 泣き顔みせません
秋宵月に そっと誓います

里山わたって 野分け風
どうぞ届けて 私の慕いおも
たとえ遠くに 離れていても
結ぶところは ひとつです
いつか ああ ふたりに幸せを
秋宵月の 空に祈ります